



診療画像検査法

MR の実践

—基礎から読影まで—

金森勇雄, 藤野明俊, 丹羽政美, 他 編著



本書は診療放射線技師国家試験の試験科目である診療画像検査学のMR検査に関する内容について、基礎から読影までを丁寧に分かりやすく記載されている大変ユニークな本である。丁寧に分かりやすく記載されていると感じられるのは、本書

の随所に感じる編集センスの良さや美しい図表及び明瞭な医用画像の使用だけではなく、本書の明確なコンセプトにあると思う。それは“チーム医療”の推進のため厚生労働省医政局長通達（医政発 0430 第1号，平成22年4月30日）で診療放射線技師へ要望されている①画像診断の読影補助，②放射線検査等に関する説明・相談を業務内容に包括し積極的に実践するために最低限必要な事項が記述されている点であり，その意気込みが至る所でひしひしと感じられるのである。

MR装置の進歩及びパルスシーケンスの多様化は，愚生がMRIに触れ初めてからの15年間を振り返ると目が回るほどの速さで推移し，撮像法の開発は正に日進月歩の勢いである。診療放射線技師に求められている読影の補助に関連して，臨床例に合致したプロトコル設定は正に腕の見せ所であり，見えないものを見えるようにする診療放射線技師の重要

な役割の1つである。そのためには，NMR現象，MRIの原理，パルスシーケンス，MR装置の特徴及び構成に関する理解が大変重要となる。本書前半部分を成す基礎編では，分かりやすい図をふんだんに用いながら重要な部分はしっかり押さえた記載が成されている。本書を読むと自然にMR検査で必要な撮像原理，プロトコル設定の根拠が分かるように感じられる。また，基礎編で得られる幅広い知識は，より専門的にMRIに携わろうとする方の資料としても有効である。診療放射線技師に求められる重要な業務の1つとして，性能評価及び品質管理，安全管理が挙げられる。基礎編ではこの部分も丁寧な記述がされており，装置管理の観点からも本書は有効に活用できる。

本書後半部分を成す臨床編では，部位別そして疾患別に撮像法及び臨床画像が提供されている。臨床編での丁寧さ，分かりやすさを感じさせる点は，部位ごとに詳細な解剖の説明，一般的な撮像法，読影要点，患者背景，撮像要点というように，統一した項目で記載されているところが挙げられる。本書の序文に，「包括的指示における自立的判断を可能とする要素は病態に関する読影力に尽きる」と記されている。読影力を獲得するための重要な知識として，正常解剖，患者背景を考慮した撮像パラメータの選択，各種撮像法により得られた医用画像の特徴と要点，読影の要諦が必要であり，本書はこれらが部位ごと，そして疾患ごとに記載されている。また，必要に応じてX線CT画像との対比などあり，ほかのモダリティと比較した読影能力向上にも寄与するものと考えられる。

改めて本書は，MR検査に関する基礎から読影までを丁寧に分かりやすく記載されている大変ユニークな本である。読影の補助，疾患ごとのプロトコル設定，放射線検査等に関する説明・相談に関する知識を，all in oneで系統的に基礎から学ぶには最適な図書である。

(室井健三 国際医療福祉大学)

(ISBN978-4-86003-416-0, 定価本体5,000円, A4判 368頁, 医療科学社, ☎03-3818-9821)